

祈り

■はじめに・・・学びの目的

□祈りの基礎は、聖書に記された神のことばです。

聖書を読み、神のことばを通して、神がどういうお方か、私たちに何を語っておられるのかを知ることができます。

聖書は、思想や哲学的思索とは違います。何千年という歴史の中で、神は事実をもって、そのことばの確かさを証明しておられます。聖書を学び、歴史を学ぶと、神がおられることと神の約束はそのとおりになることが、よくわかります。

□信仰とは、「とにかく信じること」ではありません。

「聖書の預言は、その通りになってきた。だから、聖書が将来こうなると預言していることは必ずそうなる。」と信頼すること、これが信仰です。このように神を信頼するようになると、次は、神に祈ることができるようになります。そして、聖書を霊の糧とし、祈りを霊の呼吸として、信仰者は霊的ないのちを保ち、成長していきます。

□祈りについての第一のテーマ

私たちは、9月と11月の2回にわたり、祈りの第一テーマ、誰に対して祈ればよいのか、を学びました。その結論は、「父なる神に祈る」ということでした。イエス様は明確に父に祈るように教え、その教えを受けた使徒たちも明確に父なる神に祈っています。

□今回から第二のテーマに入ります。

主イエス・キリストは、「わたしの名において」父に求めるように、と言われました。そのため、私たちは、「天の父なる神様」という呼びかけで祈りを始め、「主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」という結語で祈りを締めくくります。

では、「主イエス・キリストの御名によって」祈るとは、どういうことでしょうか。それが第2のテーマです。

■第2のテーマ「主イエス・キリストの御名によって」祈るとは

1. イエスが公生涯の中で、祈りについて教えた箇所

(1) ヨハネ 14：12～14

- ① 12節 さらに大きなわざ＝宣教
- ② 13節 あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、わたしはしよう。 → マルコ 16：20 主は彼らとともに働き
- ③ 13節 父が子によって栄光をお受けになるため（神の栄光）

(2) ヨハネ 16：19～24

- ① 19～22節 十字架の死→埋葬→復活→昇天→天の父の右の座につく→聖霊降

臨

- ② 23 節 その日あなたがたが父に求めることは何でも、父はわたしの名によって、それをあなたがたにお与えになる。
- ③ 24 節 求めなさい。そうすれば受ける。それは、あなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためである。
- (3) ヨハネ 16 : 26~27
 - ① 27 節 あなたがたは、わたしを愛し、また、わたしを神から出て来た者と信じた。
 - ② その愛と信仰のゆえに、父ご自身があなたがたを愛しておられる。
 - ③ だから、あなたがたは、わたしの名において父に求めることができる。
- (4) **まとめ**
 - ① 「主イエス・キリストの御名によって」祈ると、イエスが働いてくださる。そして、栄光は父なる神に帰せられる。
 - ② 私たちが祈り求めることを、父なる神はイエスの名によって与えてくださり、私たちが喜びで満たしてくださる。
 - ③ そのように応答される祈りになるのは、私たちが、単に「主イエス・キリストの名によって」と唱えるのではなく、「イエスを愛し、イエスを神から出て来た者と信じます」という愛と信仰をもって祈るときである。

2. 「美しの門」での癒し 使徒 3 : 1~4 : 14

- (1) 使徒 3 : 6 ナザレのイエス・キリストの名によって歩きなさい
- (2) 使徒 3 : 15~16 このイエスの御名が、・・・この人を完全なからだにした。
 - ① その御名を信じる信仰のゆえに
 - ② イエスによって与えられる信仰（旧約聖書は、イエスについての預言で満ちている。イエスによって私たちは神を信頼することができる）
- (3) 使徒 4 : 10 神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名
- (4) 使徒 4 : 14 天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていない。
- (5) **まとめ** 「主イエス・キリストの御名によって」とは、神がイエスを死者の中からよみがえらせたことを信じることの表明である。

次回は、来年 1 月 22 日（第 4 日曜日）です。このテーマの続きを、ヘブル人への手紙から学びます。

報告

先日、五人委員会（中川先生と 4 人の長老：北海道の木林兄、関東の榊兄・永山兄、沖縄の下地牧師）にて、門司港レトロ集会在が 30 番目のフォーラムとして承認されました。開所式は、来年 3 月 4 日（土）午後 1 時半の予定です。